

会えないからこそ、
心の繋がりが大切だと思います。
出逢ってくれて、ありがとう☆

きずな新聞 かな (女川)



肺炎の入院患者様が「いっぶく」と言って
歩いており、止めに入りましたが
「飲料」の意味であることを後で知りました。
東北弁が理解できず失礼な対応を
してしまいました…そんな私に、
優しく接してくれた東北の方の温かさが
忘れられず、今も心に残っています。

今津赤十字病院 水口健創

震災発生の翌日、福岡県支部から出発し、
石巻赤十字病院での活動や避難所での
巡回診療に携わりました。
以来石巻には行けていないのですが、
情報はいつも注視しています。
あの時の記憶はいつまでも
忘れることはありません。
どうかお体ご自愛下ください。

日赤九州国際看護大学 森部恵介

日常が一変したあの日から、
悲しいこと大変なことが色々ありました。
ご支援の方々にも支えられながら、
ご近所・地域・職場…色々な人と
声を掛け合い、子供からお年寄りまで
各々ができることを行い、助け支え合い
今があります。これからも
「できることを一歩ずつ」歩んでいきましょう。

石巻赤十字病院 S

きずな新聞のお届けを通じて、石巻に三度伺いました。
仮設住宅や復興住宅には、
お一人で住んでおられる方が多かったのが
心に残っております。
80代で一人住まいの母の事にも重ねて、
皆様今はどんなお気持ちだろうかと
思いを馳せています。
どうかお体を大事になさってください。

きずな新聞 マニー (埼玉)



震災後、愛媛県を出発し石巻で
救護活動にあたりました。
石巻の方々に私たちが励まされ
「人と人が寄り添う」実体験をしました。
人の繋がりはコロナ禍もきっと
乗り越えていけると信じています。
皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

愛媛県赤十字血液センター 門屋純一

岡山から1000km以上も離れた石巻。
震災当時、災害派遣という形で
初めてお邪魔しました。
今度は救護服ではなく私服で
石巻にお邪魔します。
震災を知らない我が子連れて
逆かま食べに。

岡山赤十字病院 K

震災後、災害対応に使用した
資材等を撤収するために
石巻を訪れました。
皆さまに直接的な支援は
できませんでしたが、帰路につく際には、
見えなくなるまで手を振って
見送っていただきました。
勇気と感動をありがとう。皆さんお元気で。

日赤医療センター 角公彦



コロナ禍で思うように石巻に行けませんが、
お会いしたお一人お一人の顔を
思い出しています。
ただでさえ自由に人に会えない今、
皆さんはどうされているのかと気になります。
またお会いできる時を楽しみに、
私もがんばります。
お元気でいてくださいね。

きずな新聞 あさこ (愛知)



災害発生後、雪降る中、
夜通し運転して石巻日赤に到着しました。
活動先の学校では、
災害直後にもかかわらず皆さんが
笑顔で温かく迎え入れてくれたことは、
今でも覚えています。
コロナで大変な状況ですが、
これから心も温まる笑顔を大切にしてください！

深谷赤十字病院 毛利



石巻では、「ありがとう」
という言葉が沢山頂きました。
私達も熊本地震で辛い体験をしたが、
石巻の方々のことを思い出す度に
勇気がわいてきました。
コロナ禍で大変な日々が続きますが、
熊本と石巻で離れていても心はひとつです。
「がんばろう！日本」

日赤熊本健康管理センター 盛川恵美子

石巻赤十字病院から近隣の避難所へ
アセスメントへ向かいました。
避難所になっている中学校へはゴムボートで
しか渡れないと聞いていましたが、
手作りの橋げたができていました。
教室内では近隣のお店から
饅頭が配給されており、地元の皆さんの
強い団結力とパワーを感じました。

成田赤十字病院 西宮昌弘



震災から10年が経ちますね。
皆さんの団結力と復興に対する
強い思いに感動を覚えました。
復興への道のりはまだ続きますが、
応援しています。

日赤医療センター 大久保佳代

もう10年になるんですね。
新型コロナのため、
石巻とは1年間ご無沙汰してしまいましたが、
また会いにいきますね。
時間が経っても悲しいお気持ちは
変わらないと思いますが、少しでも
元気出してもらえると嬉しいです。
新聞配りにいったらお話ししましょう。

きずな新聞 佐藤俊一/しゅん (東京都)

10年間、
たくさんの涙と笑顔を皆さんと共有しました。
直接お会いした方、
紙面を通して出会ってくださった方、
すべての出会いに感謝です。
11年目のこれからも、共に歩んでいきましょう。
あの日を生き抜き、
そして今日まで生きてくれて、ありがとう。

きずな新聞 岩元暁子/あき (東京/石巻)

